

地球の  
「いきいき」のために

# 環境目標の達成状況を報告します

緑字決算の対象項目は、全社で取り組むISO14001環境目標としています。  
緑字対象項目の見直しに伴い、全社の環境目標も見直しを行いました。

## 環境会計

2008年度の環境コストは、公害防止コストのほか、地球環境への負荷を減らすために取り組んでいる省エネ活動や資源循環活動の費用、環境設備導入のための投資の割合が高くなっています。前年度と比較すると、小型蒸気発電機など省エネ設備の導入や整備にかかるCO<sub>2</sub>削減のための地球環境保全コストと食品廃棄物の有効利用のためのリサイクル設備や廃棄物削減にかかる費用が増加しました。

そのほかには、中身を消費した後の容器包装のリサイクルを進めるための上流・下流コストや、法令や規制を遵守するためにかかる管理活動コストなどがあります。さらに事業活動以外では、環境部門が実施している「田んぼの学校」などの環境教育や、ベロタクシーなど地球温暖化の防止に貢献するNPOを支援する社会活動コストがあります。

(集計範囲:宝酒造単体、2008年度対象期間:2008年4月1日~2009年3月31日、単位:千円)

分類	主な取り組みの内容	2008年度	
		投資額	費用額
(1) 主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		198,853	533,412
内 訳	①公害防止コスト	27,034	263,603
	②地球環境保全コスト	78,682	64,464
	③資源循環コスト	93,137	205,345
(2) 主たる事業活動に伴ってその上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(上・下流コスト)	はかり売り用タンク購入、再商品化委託費用、リターナブルびんシステム維持等	17,844	304,153
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	環境マネジメントシステムの整備・運用、環境広告等	6,389	355,851
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発	0	384
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	田んぼの学校、ベロタクシー、エコプロダクツ展等	4,620	21,738
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	産業廃棄物適正処理推進基金	0	47
合 計		227,706	1,215,585

※分類は環境会計ガイドライン2005年版による

## ISO14001 環境活動結果

全社で取り組むISO14001の環境目標項目は、緑字決算の対象項目と同一として環境活動を進めています。2008年度のISO14001環境目標の達成状況を報告します。

### ■2008年度 ISO14001 活動結果表



…目標を達成できました



…目標を達成できませんでした

項目 具体的指標	目標 → 結果	取り組み・達成状況	2010年度目標
生産部門CO <sub>2</sub> 削減 焼酎換算製品1kℓあたりのCO <sub>2</sub> 排出量 (2007年度対比)	1%削減 → 4%削減 	アルコール蒸留での蒸気圧力差を利用する小型蒸気発電機の導入や、廃熱の回収、蒸気配管の保温など、エネルギーの効率利用によりCO <sub>2</sub> 削減することができ、目標を達成できました。	2007年度対比 3%削減
生産部門用水削減 焼酎換算製品1kℓあたりの水使用量 (2007年度対比)	1%削減 → 1%増加 	お酒の原材料として水を使用するほか、装置や容器の洗浄および製品の冷却にも水を使います。生産工程での水の再利用や節水により、用水の削減に取り組んでいます。アルコール蒸留の増加による冷却水の増加があり、目標は達成できませんでした。	2007年度対比 3%削減
工場廃棄物排出量の削減 焼酎換算製品1kℓあたりの廃棄物排出量 (2007年度対比)	0.5%削減 → 11%増加 	焼酎製造量増加に伴い発生する焼酎粕も増加したため、工場から排出される廃棄物が増加し、目標は達成できませんでした。なお、焼酎粕は工場から出た後、肥料にリサイクルされています。	2007年度対比 2.5%削減
物流部門CO <sub>2</sub> 削減 製品販売量1kℓあたりのCO <sub>2</sub> 排出量 (2007年度対比)	1%削減 → 1%削減 	コンテナ輸送の際のフェリーの利用などのモーダルシフトや、消費地から近い工場での生産を推進することにより、工場からの製品物流に伴うCO <sub>2</sub> 総排出量は削減することができ、目標を達成できました。	2007年度対比 2%削減
環境ボランティアの推進 社員の環境ボランティア参加の増加人数 (2007年度対比)	100人増加 → 78人減少 	社内のお知らせデータベースなどで積極的に環境ボランティア情報の発信(発信回数約66回)は行いましたが、天候不良によるイベントの中止などもあり、ボランティア人数は減少し、目標を達成できませんでした。	2007年度対比 ボランティア参加人数の増加 300人増加
グリーン購入の推進 森林認証された用紙の使用量 (2007年度対比)	150%増加 → 229%増加 	緑字企業報告書など印刷物に使用する紙に森林認証された用紙を使用することで、生物多様性に配慮した環境広報活動が可能となります。2008年度に改訂増刷した環境啓発冊子のリサイクルロードにも使用し、目標値を大幅にクリアすることができました。	2007年度対比 200%増加
環境配慮型商品の開発 環境配慮型の工夫仕組を持つ商品の開発品数	2品目以上 → 2品目 	環境配慮型商品を開発、発売していくことで消費者の皆様の手を渡すからの環境負荷も削減したいと考えています。2008年度は、焼酎2.7ℓペットボトルの軽量化、贈答用1.8ℓびんのシュリンクフィルムの廃止を行いました。2品目で目標を達成できました。	環境配慮型商品の開発 2品目以上
環境配慮型商品の販売促進 「はかり売り」実施店新規開拓店舗数	10店舗以上 → 11店舗 	はかり売りの実施店舗数を増やすことで、新たなペットボトル容器を使用せずに焼酎を販売でき、資源の節約のほかCO <sub>2</sub> の削減にも貢献できます。2008年度は新たに11の販売店で焼酎の「はかり売り」を開始していただき、目標を達成できました。	「はかり売り」新規開拓 10店舗以上
営業車への低排出ガス車導入の推進 営業車の低排出ガス車導入率	20%以上 → 28% 	営業部門でも、燃費のよい低排出ガス車の導入によって環境負荷の低減を図るため、低排出ガス車の導入率向上に取り組んでいます。4WD車の低排出ガス車の導入がすすんだため目標を大幅に達成できました。環境活動の中で省エネ運転も実践しています。	低排出ガス車導入率 40%以上
環境コミュニケーションの推進 環境啓発冊子リサイクルロードの配布部数	3,000部以上 → 3,762部 	アースデイやエコプロダクツ展などのイベントでの来場者への配布のほか、ご要望いただいた小学校等へ送付しました。また、NPO等の開催する環境イベントにも提供した結果、目標以上の配布数を達成できました。	環境啓発冊子の配布部数 4,000部以上

※1 モーダルシフト:トラックから環境負荷の小さい鉄道・海運利用へ、貨物輸送を転換することをいいます。

HP 8:過去のISO14001活動結果 HP 9:工場副産・廃棄物の用途 HP 10:工場別サイトレポート